

令和 2 年 6 月 30 日開催 第四次長期総合計画基本構想特別委員会要旨

※審議会の検討用にまとめたものです。正式な会議録は、小平市議会ホームページから閲覧できます。

開催日時	令和 2 年 6 月 30 日（月）午前 9 時から午後 0 時 3 分
開催場所	全員協議会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員 13 名 松岡あつし委員長 橋本久雄副委員長 伊藤央委員 川里富美委員 さとう悦子委員 佐藤徹委員 竹井ようこ委員 橋本孝二委員 福室英俊委員 細谷正委員 水口かずえ委員 山田大輔委員 幸田昌之委員 ・事務局 3 名 企画政策部長 企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> 資料 1 （仮称）小平市第四次長期総合計画（素案（案））修正版 資料 2 （仮称）小平市第四次長期総合計画（素案（案））からの修正内容 資料 3 小平市第四次長期総合計画基本構想特別委員会要旨 資料 4 第 7 回小平市長期総合計画基本構想審議会会議録（要旨）

《主な質問・意見・提案等》

■資料 1（全般）

- ・審議会の意見の中で盛り込まれなかったものは。また、盛り込まれなかった理由は。
- ・市議会特別委員会や審議会での意見を踏まえた今回の修正版は、所管課でまとめたのかある程度庁内での調整を踏まえて仕上げたのか。
- ・小平市は、幼稚園数や小中学校、高校や大学などが、同じ市部の中でも非常に多い位置を占めている。こういった若い世代の皆さんとの友好的関係性を築くということが反映できるようにしてほしい。
- ・審議会は5月はウェブのみで、6月は対面だが部屋を分けて密を避けたということ。ウェブの方とリアルに集まっている方をつなぐことはできたのか。ウェブを取り入れて傍聴する試みは難しかったのか。

■資料 1（序論）

- ・新しい生活様式という言葉は大変大事なキーワード。
- ・新しい生活様式や社会の在り方が示されていく時期。小平市として「新しい生活様式」や「新しい働き方」を入れるチャンスではないか。
- ・持続可能な脱炭素社会をつくっていくというのが世界の共通認識。地域循環型社会にできるだけ切り替えていくという視点は必要なのでは。

■資料 1（基本的な理念）

- ・自治基本条例が前面にあるということを大切にしてもらいたい。

■資料 1（めざす将来像）

- ・「つながり、共に創るまち こだいら」に決まった経緯を知りたい。
- ・めざす将来像の「つながり」の説明には、もう少し背景を取り入れたほうがよいのでは。

- ・いろいろなつながりとして示されているが目標のように見える。「例えば」をつけるなど、掲示の仕方について工夫の余地はあるか。

■資料1（基本目標Ⅰ「ひとが育ち、学び、新たな価値を創造するまち」）

- ・生涯学ぶという観点から、「人が育ち、自ら学び、新たな価値を創造するまち」としてはどうか。
- ・「令和14年のありたい姿」に、「あらゆる場所で学び、スポーツに親しみ」とあるが、「文化・スポーツ」としてもよいのでは。
- ・子どもの権利という言葉が入れられなかった理由を改めて聞きたい。子どもには意見を聞かれる権利がある。子どもの視点も施策にいかしていくということも必要だと思う。
- ・西東京市は子ども条例を制定した。審議会または所管課として何か捉えているところはあるか。
- ・「子どもの権利」について審議会でも様々に議論されているが、その他意見は出たのか。
- ・「子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす」と「若者の可能性を引き出し、才能や個性を磨き」が重複しているのでは。

■資料1（基本目標Ⅱ「多様性を認めあい、つながり、共生するまち」）

- ・共生という言葉の定義が狭過ぎるのではないか。
- ・自立をしないことには共生ができない。根本に自立と入れていただきたい。
- ・「令和14年のありたい姿」に、「年齢の違い、性の多様性、障がいの有無、様々な文化の違い、国籍の違いを超えて」とあるが、審議会の意見を見ると「性の多様性」についてももう少し深く入ってほしい。
- ・性的マイノリティに関しては個別計画で明確にしていくということか。
- ・小平市は居住あるいは活動している外国人が多い市である。ヘイトスピーチは根絶ないし許さないという姿勢を取ってほしい。

■資料1（基本目標Ⅲ「自然と調和した、快適で、魅力あるまち」）

- ・「令和14年のありたい姿」に「駅周辺を中心に様々な機能がより一層集約し」とあるが、行政サービスとの一体化、効率化という観点も必要。
- ・「都市の骨格となる都市計画道路の計画的な整備や鉄道立体化」とあるが、コロナの影響などで見直していく可能性もあるだろう。ここで計画的な整備と言ってもしまうと、今まであるものをそのまま計画どおりに進めていくようなニュアンスが感じられる。また、関係機関との調整を進めるとしているが、この関係機関という中に地域住民も含まれているのか。住民・個人一人ひとりが含まれるような言葉も入れてほしい。
- ・関係機関との調整の前に、地域住民の意見を聞きという文言を入れてほしい。計画にあるからやるというやり方でいいのか。

■資料1（自治体経営方針）

- ・「自治体経営」と「行政経営」という言葉が混在している。自治体経営と行政経営の言葉の違いはどのように違っていると認識しているか。混同しているのではないか。
- ・自治体経営については市民にも分かりにくいのではないか。審議会で議論はできているのか。参加と協働についても、どこまで、どのように進めていくのか、しっかり示してほしい。

- ・行財政再構築プランと一本化するということであり、若い人の転入を増やすという視点を入れてほしい。
- ・職員の力を引き出す市役所に書かれているリーダーシップは市長なのか、市民の中のリーダーなのか分かりにくい。
- ・小平市の市職員数に対する住民負担率が市部では1位となっており、災害時等マンパワーで劣ってしまうのではないか。
- ・これまでの、市が内容を確定して意見を聞くというやり方では、市民が自治体経営に参加しているとはいえない。自治体経営というなら、参加と協働のあり方についても見直しをするべき。

■資料1（基本目標横断プロジェクト1「自助・共助・公助により防災・減災を強化」）

- ・国土強靱化という文言を入れる必要があるのか。小平市は農地が維持されていることや、大きな河川がないことが特徴であり、その特徴をもう少し重視した書きぶりのほうがよいのではないか。
- ・国土強靱化とは、学校施設などの避難所機能を強化するということとイコールになるということなのか。
- ・小平市で進めていくべきスフィア基準をどういう形で発展的に記載できるか検討できないか。
- ・自助・共助・公助がすみ分けではなく、いずれも一つの調和された中でやっていくということか。市職員が災害時に現場で市民の皆さんと一緒に対応に当たる。そういう姿勢で臨むということが、分かるような形にしてほしい。
- ・「女性防災リーダーの育成に努める」とあるが、女性だけではない。基本目標Ⅱの「令和14年のありたい姿」に「性の多様性」という文言が入ったが、性の多様性という言葉だけでは表現できないのではないか。

■資料1（基本目標横断プロジェクト2「新たな地域拠点とコミュニティの創出」）

- ・駅を中心としてコンパクトになっていくことと、小学校を中心としたコミュニティの視点があり、駅と小学校が分断されているのでは。もう少し全体にわたってひと、暮らし、まちの視点からプロジェクトが組み立てられるとよいのでは。
- ・「容易に移動できる生活圏の中に、近隣の人が気軽に集まることのできるコミュニティ空間を創出」とあるが、具体的に何を想定しているのか。公園やスペース等公共的な場になるのなら、そういう場の確保に対する支援が必要ではないか。
- ・民間施設の活用や市民による自主的な場の確保とは、具体的にどのようなものを想定しているのか。
- ・既存の施設すら有効に活用できていないのでは。

■資料1（長期総合計画推進の考え方）

- ・変化に柔軟に適応できる体制を整えておく必要があること、多様な主体との連携や多様な手段や方法を準備する等、今どういうことを念頭においているのか。
- ・強みをいかすことは非常によいこと。これから訪れる変化は強みをいかす機会と捉えて、新たなまちの価値を高めていくよう取り組むとは、具体的にどういったことを念頭においているのか。